萩尾望都

# ゴールデンライラック

sb

ゴールデンライラック
萩尾望都
PF

かくれんぼ
みつけちゃ
だめよ
ママが呼んでも
だめよ

ヴィクトーリアは
庭? またあの子
かくれんぼ?
やーれやれ

わたしを
みつけちゃ
だめよ

ゴールデン

だあれもみつけちゃ
だめよ

でも
恋人ならいいわ
恋人ならいいわ

だあれ？
ぼくは…
ビリー・バン
ぼくは！
スタンレイ
さんに…
ビリー!!

バスにいたビリーでしょ!
お風呂にいた……!
チクショーッ
ヴィーみつけた!
ぼくが先だ!
だあめ 彼が一番にわたしをみつけたんだから
じゃもうこいつにキスしたの?
ずるいぞー わりこみ!
いいのよ ビリーはよく知ってるもの あんたたちより昔からよ
ほら いらっしゃいよ
また あしたね ジョン エルシー マーカス
ちぇっ 帰ろうぜ
なあ だれだあ ビリーって
お母さまぁあ バスから ビリーが きたわよ

あなた 今日の午後 ビリー・バンが きたんです
ビリー・バン… ああ 死んだ 義姉夫婦の 息子か

バスに住んでた ビリーのおじいさんが 育ててたろう? それが 二年まえだか 他界したあと ブリストルの 親戚が 喜んで 引きとった はずだが… じいさん 小銭を ためてたから…

小銭が なくなってからは たらい回し だったみたい 学校もろくに 行ってないというし…
この手紙… 最後の親戚が うちへおしつけて きたんですけど…

うちで 育てましょうよ 将来は あなたの銀行に 入行させれば いいわ
簡単に言うねえ あなたは

で ビリーは?
ヴィクトーリアと 遊んでます …ブランデーに なさる?
ああ… ヴィクトーリアは だれとでもすぐ 仲よくなるからな

ヴィクトーリアは ビリーを 覚えてたんですよ 三つの時 バスで 会ったきりなのに

わたし あなたに バスで 会ったのよ ねえあの時 大きな お風呂が あるでしょ？
うん ローマ人の お風呂がね あれは遺跡だよ
その暗い森の中をね ずっとね ビリーが手をひいて つれていってくれたのよ
ふうん ぼく… 覚えて ない
わたしね 生まれて初めて レディーとして あつかってもらったの
とっても うれしくて ラクダに ビリーと つけたのよ
ラクダ？

このラクダよ
お父さまがエジプトに行った時のおみやげなの
…そのラクダがビリー⁉
そういつもいっしょに寝るの
エジプトって知ってる？
エジプト⁉
そこにはナイル川が流れていて昔クレオパトラ姫が住んでいたの
そして丘のように大きな三角のピラミッドがあって
ピラミッド知ってるあれ四角錐って言うんだ
砂漠がどこまでもつづいてるのよ
ラクダの列がどこまでも…
ふーん
…そして王子さまとお姫さまがラクダにのるのなぜラクダにのるか知ってる
ウマがいないんだ
ううん

ラクダは
何日も
お水を飲まなくて
いいのよ
このこぶに
お水が
はいってるのよ

すてきでしょ

なにが……？
ラクダの
お水よ

だから
砂漠を
どれだけ歩いても
のどがかわいて
死なないのよ

ヴィクトーリア
そろそろ
おやすみよ
ビリーも

ビリー
今日だけ
貸してあげる
だきごこちが
いいのよ

あした
いっしょに
学校へ
行きま
しょうね

ラクダは お水を もってるの
だから 元気なの 死なないのよ
やっかい もん
親なしっ 子
学校へやる カネなんか ないよ
おまえの もんかよ こっちへ よこせ
ビリー 坊!
…おじい ちゃん
おじい ちゃん
おじい ちゃん
元気でおれよ ビリー坊!
元気で おれよ
ラクダの お水を みつけたよ

見て まあ かわいい お見立ての いいこと
これで いつでも 学校へ 行けますね
それはみんな ビリーの部屋の タンスに しまって 置いて
本の 用意は!?
はい 奥さま

ビリーは
わたしの弟分よ
おなじ年だけど
こいつ きみんちの居候ってわけ？

ちがうわ ねえビリー
お父さんとお母さんが生まれてすぐ死んじゃったので…
へ一
じゃあ居候でみなしごだよね なあジョン

そんなこと言うんならもう遊んでやらないわよ マーカス！

ようどけよ居候のチビ

ヴィクトーリア
ぎゃーっ
こら こらっ
あんあん あーんあん
ぎゃん うわあん

ぼくはなれてるもん
ヴィーは女の子だからスカートまくってケンカしちゃだめだよ
ビリーは乱暴ってあだながついちゃってもいいの？
わたしはわたしのいとこがそんなあだなで呼ばれるのいやだわよ
わたし何度だってケンカするわよ
くすんくすん
だってビリーにお父さんやお母さんがいないのはビリーのせいじゃないわ
困ったわねさあもう泣かないの
だからみんなのほうがいけないわよ

そして すぐに ぼくは 新しい生活に はいりこんだ
くいしんぼの ジョン
ヴィー だめ 先生に しかられるわ ジョン！
すぐ帰るわよ マフィン買ってくるだけよね
エルシー あんたは なし なのよ
泣き虫 エルシー
先に お帰りよ
いや
今度は あたしも マフィン 食べる
おしゃれな マーカス
やあ きみたち ぼくの新しい 自転車を 見たまえ
キャー
かわいい ヴィー
ぼくの 自転車
もっと 足あげて

たくさんの新しいできごと
つまんないわ ビリーにしか自転車を買ってくれないのよ
エルシ あなたも女の子だからだめだって？
ううん・ヴィー だって こわそうで…
まあ エルシー 自転車って とっても気持ち いいのよ！
ビリー
エルシーを のっけて うんと走ってよ
ビリーは上手よ しがみついていれば いいのよ
じゃ競争に なんない や
なに言ってんだい
エルシーのっけてたって ぼくがいっとう速いさ
走って 走って もっと 速く！
エルシー すごいでしょう

つかまって
とばすから
あっ
エルシー
エルシー

——ほんとうに
——ごめんね
エルシー
ビリー…
あの…
また自転車にのせて!
うん!
もちろん今度は安全運転で!
すると十二月の二十四日に
エルシーはカードと小さなつつみをくれた
ぼくに
メリークリスマス
いつも自転車にのせてくれてありがとう!
それは
ぼくが生まれて初めて友だちからもらった贈り物だった

ねぇ ヴィー
あたし ビリーが 好きよ
ほんとう? エルシー!
わたしもよ
みんな 大好きだけど ビリーが いっとう好き
きゃっ ヴィー
その年は たくさん すてきな ことがあった
ライラックの中の ヴィ
自転車にのった ヴィ
ジョン マーカス みんなとの 遊び
贈り物を くれた やさしい エルシー
初めて ヴィーの家で 迎える クリスマス
これからも すてきなことが いっぱいあるに ちがいない
ぼくらは みんな いっしょに すてきな日びを 過ごすのだ
みんなで 自転車にのって

東を見て！ 見て！ 東の！ 飛行機よ！
飛行機？
どうしたの ヴィクトリア
飛行機だって？
まあ…あれは なんですの？
あんなもの 初めて 見ますわ
飛行機よ！
ねえ！
ハッタ シャン
まあ
あれは… アメリカで飛ぶ ものだとばかり 思って ましたわ
そうだなあ
ううん

はーーい
わあ

あやっ
うわっ これ ほんとに浮いてるよ
ああ ぼく バイ買って すっからかん
も… ペニー
つまんないわね つなでしばってあるなんて
うん えい！
大丈夫！ さ つないでしばってある から さあ ペニー！
だれかきて くれーっ
わーっ
ヒモー 解ずー
そのヒモを 木に くくれ 木に
木… 木…
木！

キャー
見て！
ああん あんあん あああん ママー
わたしたち テントより 高いわ！
飛んでる！ わたしたち 飛んでる！
ああ ああ
泣くなよ 待ってろよ すぐおろす からな――
わっせ うんせ
飛んでる！

もちろん　あとで
ものすごく
おこられた
でもあれは
すてきな気分だった
鳥といっしょに
小鳥のように
高く空へ飛ぶなんて
こいつは
自転車より
よっぽどすごい
そうよ！
すごいわ
ビリー！
わたしたち、
おとなに
なるころには
もっと高い空まで
飛びたいわね……！

一九〇九年
ルイ・
ブレリオが
ドーバー
海峡を
飛行機で
越えた
フランスから
イギリスへ
海を越えて
飛んだのだ！

この年
ぼくらは
十二だった
夏休みの始まりは
いつも海で
すごすのだった
ぼくらも
エルシーも
ジョン
マーカスの
家族も

海はいいけど
黒人が
いやだ
どうして？
マーカス

だってヤツらは
クツをはいて
ないじゃないか

マーカスはおしゃれだからね
ビリー！マーカス！
…でもウソをはけないのはその子たちのせいじゃないんだ

わあよかった裏通りで迷っちゃったのよ
どうもありがとう
どういたしましてお嬢さんたち

ヴィー！ そして今のくさい連中に案内してもらったの？あぶないよ！
あらマーカスあの人たち紳士だったわよ
ねーえエルシ

ようべっぴんさん
はい

なーんだいヴィーはまるで不良娘じゃないかあれじゃ
マーカスちがうわよヴィーは…

ヴィーは…きれいだからみんなが口笛をふくしみんなが親切にしてくれるのよ

ほんの少しずつ

ほんの半歩ずつ
ぼくらは
かわっていくの
だった

エルシーはもう
だれの自転車にも
のらなく
なったし

ヴィ は
……

なんて言ったら
いいのかな
朝焼けの
空みたいに
きれいに
なってきた!

ヴィーは
いいわね
美人で・

あたし
なんか
どうしても
ダメだわ

あら
エルシー!!
それは
それぞれの
個性って
もんだわ

わたしが少し
美人でも
エルシーには
エルシーの
美しさが
あるのよ

ほらこれ
お母さまの
新しい帽子
ちょっと
かぶってみて

なにして
んの・

キャーッ

はいっちゃ
だめっ

ヴィーも
エルシーも
つき合い
づらいよな
このごろ

ぼくら一日、
鏡のまえで
あんな
アホなこと
できないよ

お父さまもビリーもはいっちゃだめよ！
まあおかわいらしいいいレースですこと
仮り縫いだとき新しいよそいきの
なあビリきみはまえに飛行機が好きだと言っとったな
ぼく今だって好きですあれは…
実はなわしは今度飛行機をつくろうと思っとるんだ
飛行機をつくる!?
お父さまが飛行機を!?
おやおや！
ヴィーー！まだ針が！
そのライラック・カラーのレースのよそいきはヴィーにとっても似合ってた
わたしをみつけちゃだめよ

そら そんな歌だった・・
ぼくがハタチの春
ヴィーの家に来て・・
――その時ヴィーが
紫の
ライラックのしげみで
小さな声で
歌ってたのは――
これが? これが?
信じられませんわ!
飛びますの?
もちろん飛ぶように
できてるもんです――
スタンレィさん 用意は?
ホ!
まあ
あぶないことは
ないんでしょうね
!
わしはこいつに
出資して
新しく会社を
おこすつもりさ
なんの
あぶないものか
さあ
見てなさい
さがって
さがって
プロペラを
回してください!
ママが呼んでも
だめよ
わたしを
みつけちゃ
だめよ

お母さま見て！
ビリ　ビリー！！
見て！
でも恋人ならいいわ
恋人ならいいわ

わたしに
キスしちゃ
だめよ
なんにも
知らない
初心だから
でも
恋人なら
いいわ
恋人なら
いいわ
わたしに
求婚しちゃ
だめよ
バルバルバル
バルルルルル
どんなに
思っても
だめよ
だって

いやあ
すごかった
よくやった
ちくしょう
おおい
お母さま
早く――!
――だってもう
良人がいるの
良人がいるの
あなたっ
あなた――っ

いったいなにが起こったの!?
お父さまはどうしたの!?
みんなお父さまをどこにつれていくの
お父さまはどうしたの
お父さまはお元気なかたよ
ヴィー
お父さまはどうしたの
だれか──
あ!! ヴィー!!
ヴィー
ヴィー!!
ビリー
ビリー!!
おそらく落馬のショックで頭の中の血管が切れたのです
スタンレイ夫人
手術はたいそうむずかしく……

…手術できない…？
ただ目ざめるのを待つしかありません…
その間は注射でもたせるしか…
いつ…目ざめますの？
…奥さん目ざめるという保証はないのです…
わたくし病室についてますわ
今、おとまりになれるベッドがありません
おなじ部屋でいいんですわ
お母さま！
ヴィクトーリア
お父さまは？
…今、眠ってらっしゃるのよ
眠ってらっしゃるの？
眠ってらっしゃるだけ？
ええ…
お母さま

おばさん!
看護婦
お
お母
さ
こっちへ
スタンレィ氏は
どこです
スタンレィ
氏は!?
たおれたって?
いけま
せん
はいっては
いけません!

あら・こんにちは パークスさんと ウィングフィルさん でしたわね
お父さまの 銀行の

これは! ええと ヴィクトーリアお嬢さん
お父さまは今 おやすみなのよ お母さまがつきそって 眠らせているの
お父さまは大きな 注射をしたの 明日には お目ざめに なるわ
ああ
そう そうですか 明日!
しかしあれは 明日が期限だ スタンレィ氏の 信用で借りて ある
ああ もう こんな時に
そんな話は 外でなさって ください ここは病院 ですよ

ヴィー
そうよ

お父さまは 大丈夫 あんなにお元気 だったんですもの
大丈夫よ
カーン

長い一夜が明けて
また日が始まった
その日はやたら鐘の音が耳についた
一九一〇年五月六日
まあ！聞きました？お嬢さま。国王がおなくなりになったんです！
カーン カーン
キング・エドワード七世
たいへんだ！喪服を用意しないと
だめよ！うちでは喪服は着ないわ！
お父さまはまだお元気よ！お父さまはまだ眠っていらっしゃるのよ！

そのあいだヴィーが 着ていたのは あの よそいき用に作った ライラック カラーの レースの服だった
一番いい服なら国王に 礼をつくすことになるから だとヴィーは言う
…ヴィー お父さん どう?
ええ ありがとう マーカス 大丈夫よ
ありがとう ジョン エルシー 大丈夫よ
ええ
大丈夫なのよ
お母さまー
スタンレイ夫人ー おばさんは 一週間おきに 病院から 帰ってきた あとはずうっと とまりこんでいた ぼくたちは 病室に 入れてもらえ なかった

お父さまは…
お目ざめにならないの
でも心臓だけは
動いているのよ
じゃあ
そのうちきっと
よくなるわ!
ええ…
でも
おやせになって…
目をさまさ
なければ
だめなのよ

パークスさん、
でも…うちには
子どもがおりますの
主人は病気
ですしそれに
ええ! ええ!
うちもおなじです
奥さん!

まあ ひどいじゃない！ どうして運転手も自動車もどっかへやっちゃったの
ヒマを出したんですよ
いいのよ ヴィクトーリア 今は必要しゃないのだから
だって
ビリー 家で病人が出ると人ってよりたがらないものなの？
うちのコックや若い女中がやめたこと？
ヴィー、スタンレイさんが病気なもんできっとうちはおカネがないんだよ
夏休みに もうならんとしていた
ヴィーと ビリーがこないのはつまんないけど
海から手紙かくわね
ええ ありがと
それに 来年は行けるよね 来年はおじさん元気になってるさ
バイバーイ
また新学期ね
バアイ エルシー
バアイ マーカス
バアイ ジョン
どんなに困ってもだめよ
だってもう良人がいるの・

…ねえビリー
うちにおカネが
ないんなら
どうなるの？

…わからない
わたしたち
海の裏町で
見た子たちみたいに
なるのかしら

うん…ロンドンにも
裏町はあるんだしねえ

とめて
とめてください

お母さま!!
ヴィー!!
ビリー!!
早くのって！

どうしたの？
病院に行くのよ！

お父さまが
目をさましたのよ！
ああ

そっと いいですね
病人は まだ口が きけませんから
あなた…!
ビクン
おじさん！ なんてやせて…

お父さま…？
…まだ意識がはっきりとはしてないのよ
でも わたしを見ているわ お父さま？
ヴィクトーリアよ わかる？
あのライラック色のレースを着てくればよかったわ
ひさしぶりに会うのに
神さま…
奥さん この状態では手が動くようになるまでだって何年も何年もかかるでしょうね
お父さまは もう悪くならないのね これからは毎日毎日よくなる方向へ向かうのね！
そうです そうです
ここではもう お父さまがいつ死ぬか いつ死ぬかとおびえなくていいのね

引っ越しは
手早く
すんだ
ぼくらの荷物は
いくつかのトランク
だけ
その夏
エルシーや
マーカスから
手紙がとどく
まえに
スタンレイ一家は
ロンドンのはずれの
安いアパートに
移った
だれもモンクは
言わなかった
やることが
山ほどあった
お父さま
じき
病院から
帰るのね
じゃベッドは
窓のそばね
小鳥が飛んでるのが
見えるように
スズメだろ
あら
飛行機だって
見えるかも
あ このラクダ
ベッドのそばに
飾っていい？
まあ その
ラクダ
ね
お父さま
こうしてれば
エジプトのこと
思い出して
きっとたいくつ
しないわ

ごめんなさいね
……これからも
なにも買って
やれないわ！
ビリー……あなたにも
なにもしてやれないわ……
おばさん！ もう
ぼくが もう
なんでもできるよ！
わたしたち
ラクダに
なればいいわ
ラクダ？
ラクダは
こぶに
お水が
あるから
砂漠で
死なない
のよね
そうだよね！
元気なんだ
いつでも
元気なんだよ！
おばさんは
スタンレイ氏から
目がはなせないので
家でやれる
住所かきや
針仕事を
みつけてきた
この年 ぼくらは
十二
だけど下町では
みんなふつう
もっと小さい時から
働く
ヒュー
ヒュー
よーっ
べっぴんさん
すごい
シャンやんけ
ピュー
ピュー

そら 持ってけ
ムダ口 たたくな
そら 次
なに ぐずぐず してんだい
あいよ
ヴィー ケガしたの?
こすった だけ
お母さまに 言っちゃだめよ
言わないよ ほら
二人で働いて どうにかこうにか 暮らすことが できた
仕事になれると サボるコツなど 身につけ
野菜クズを 拾って帰ることを おぼえた
ああ
あ
おじさんは 腕が 動くように なった

イースターに
教会で
バザーを？
けっこうで
ございますな
奥さま
下町の貧しい
人びとにもっと
光を与える
べきですわ

まあ！ あの子なんて
うちの娘とおなじぐらいの
子だわ！ かわいそうに

あなた！
希望を
失わずに
働くのよ
まあ
こんなに
よごれて
かわいそうに

これが
わたし……？

こんなことで
いいのかしら
わからないわ
わたしは
子どもだから
そんなに働けない

だから
いやってほど働いて
ちょっぴりしか
おカネが
もらえない
ほんとうに
これしか方法が
ないかしら？

ないかしら？

おかえりなさい
はい 野菜クズ
お母さま 鍵どこ？ たらいは？
たらい？
ガタン
ヴィー！ この寒いのに！ かぜをひきますよ
ビリ わたし お風呂にはいるから 台所にこないでね！
ヴィー！
寒く ないわ
髪を洗うのよ それに からだも！
ヴィ……
お母さま わたし 職をみつけに 行くわ 市場で荷台を ころがすなんて もういや
ヴィー

もっとこっちへ
およりよ、寒いでしょ
お母さまどうしてお父さまはお金持ちだったの？
…お父さまは昔からお金持ちでしたよ
今度のことは少し運が悪かったのよ
あなたの好きにしなさい
お父さまはだんだんよくなるわ
みんなでがんばればいいわ
ヴィー
きれいになったでしょお父さま
む…
ねえ娘が美人だとうれしいでしょ
ヴィー！どこに行くの？
口紅つけて
仕事さがし！
ハックショーン

ヴィーは
高級ホテルを
十軒以上回って
住みこみの仕事を
さぐりあてた
ヴィーはホテルの風呂にはいれる
ホテルの食堂で食べられる（従業員用の）
そして週に十 ペンスの
給金をもらうだ
ところが彼女は
もっとかせいだ！
高級ホテルの
いいところは
客の支払いが
いいことだ！
サッサッ
サッ
サッ
ありがとう
おしさま！
うむ

十日に一度ぐらい
仕事のあいだをぬって
ヴィーは数時間
帰ってきては
おじさんの
ようすを見
トントントントン
まあ タマゴ!!
まあ バター!!
いいの? ヴィー!!
こんな上等な!!
まあ
ナプキンまで!
いいのよ
コックと仲よし
なのよ わたし
なんでも
ホテルには
山ほど
あるんだから
ビリー!!
ヴィー!!
来てたの
ヴィーは
会うたびに
きれいになって
いくのだった
ぼくなどは
どんどん
きたなくなって
いくので.
ビリー
仕事
どう?
ん ん
あいかわ
らず
お父さま まあ
ヒヤシンスね
毎日
咲くのを
お楽しみ
なのね
あなた
む

ビリーは
わたしが
ホテルのメイドを
しているのが
いやなの？
そんなことは
ないよ
どうして　さ
だって
このごろ
わたしが帰っても
わたしと
話さないじゃ
ないの
わたしが
キスしようと
すると
いやがる
みたいだし
わたしが
おなじホテルの
ドアボーイの仕事を
世話したのに断るし
そんなこと
言ったって
ヴィーぼくは
どうしていいか
わからない
―半年―
ぼくたちは
十四だった

どうしたんですか
おじさん？
いや

いやって
苦しそう
ですよ
いや
持病なんだ

ゆっくり
やれ

ゆらすな！
だから
馬車は
好かん
おじさん
がまんなさい
すぐ着くから

だんなさま！

わしが
だれだか
知っとる
のか
いいえ

なるからですよ
だまれ
その少年に

きみ
これを
わかった
ああん？

ふむ
そう
この■はとても
その子
十六だから
まだ
子どもだけど

美人だな
美人だよ

礼金を
渡しそこね
ました

そういえばヴィーにもう一月近く会ってないなあ
いこうかな
一分だけ
うまくホテルの台所にいればいいけど
なんだね坊ず仕事はないぜ
あの、友人がヴィーがここに…
ヴィー
ああ あのべっぴんかありゃクビになったよ
クビ!?
このサルババア

わたしがいつあんたの色目つかったって
いつですか!?
いえもう一か月ほどまえだよ
イヤミなお客と大ゲンカしてな
いやそうがったよ
二か月まえ
でもつい一か月まえには帰ってきた
いつもとかわらずパンやタマゴを持って
おかえりビリーおそかったのね
ううん
知らなかった
おばさんに言ったら心配するヴィはどこかで働いているんだ
でもどこで?ぼくらに言えないようなところで?

なんてムダをしているんだ
ヴィーは笑ってホテルを出たという それきりだ どこにもいない
ー!
まだパンとタマゴを持って帰ってくるまで待つしかないんだろうか
ヴィー
ヴィー!!

なにごとだ
ぞんじません

ヴィー…

きみか

どうした
ほっ ほっ
ヴィーは
どこです―
この子
どこです

ここには
いない
きみは
犯人か？
は
ぼくは
いとこです！
ビリー パンってんです！

ははう
じゃ
行こう
これで
貸し借り
なしだ

どこへ？
クラブだ
この娘を
さがしているん
だろう？

なんです ここ
会員制クラブの裏口だよ
はいれん
これは スティーブンス さん

わたしの心ゆさぶる〜〜〜 いとしのマンデリ〜ン
白き月に花の影ゆれ
おもかげ胸にあふれ〜〜
かわいいねえ
あの金髪はスティーブンスのお目あてさ
へっあの独身主義者の!?
この「ライオンとユニコーン」クラブの人気者だ 実に色っぽい
な
ヴィーは・ヴィーはあなたが考えてるような子じゃない!!
知ってるさ
あらスティーブンス
こんばんは
へいヴィーあんたのごひいきよ
え? お待たせ

ヴィーッ!!
ビリー!!
おいで
待って! まだ仕事が…
ちょいと待ちな 坊や あんたヴィーの なにさ
その手はうちの商品だ なにをする気だ
まあ まあ
あんたがつれてきたの? ハーバート よけいなことを!
ヴィー!
ビリー
しかたないでしょ! ホテルをクビになったあと ここしか仕事がなかったのよ

じゃわたしはこれでヴィー
ええハーバートおやすみなさい
いつも彼が送ってくれるの？
ええ歩いて5分ぐらいなのよ
今、どこに？
アニーの下宿よ おなじ間借り手のね
かんぐらないで あの人は紳士よ
アニーとこは時どき彼氏がくるの夜中に
で わたし気をきかしてよく表に出るの
そしたら一度酔っぱらいにからまれてね
ネエちゃんいくら？ホテル行こホテル
しつこいわね！人を呼ぶわよ
きみ その子はわたしと先約があってね
ね？お嬢さん？
助けてくれたのがハーバート・スティーブンスだったのよ

「ライオンとユニコーン」で働いてるって言ったら それからクラブにくるようになったの ――一か月ほどまえよ

べつな仕事をみつけないか
踊り子のとこがいけないの!?

お客はきみの顔と金髪につられてきてるんだよ!
おじさんやおばさんが聞いたら泣くよ!

ええ! 容貌はわたしの武器よ 最大に利用してやるわ!
わたしはがんばってかせぐわ
これでかせげるうちはね!

物価は上がるし いくらかせいでも足りないじゃないの
日当たりのいいアパートにも越したいわ お母さまは三年もおなじ服だわ 髪も結えないし 新しいストーブだっているわ どうやって買うのよ おカネがなきゃ!?

新しいコートだっているわ 冬がくるのに
ヒュウ
ガサ

ほんとうに冬がくるのだった
毎年 下町のみぞの中にころげた子どもや老人の凍死者が出る冬

しゃあ
おやすみ
ビリー
いいこと
ないしょよ
・・・
ぼくも・
なにかもっと
仕事さがすよ！
かせぎの
いいの
みっけるよ
そして
新しい
コートの
一着ぐらい
ヴィーに
買って
やりたい
きみの　いせいのいい
いとこは元気？
あらビリー？
元気よ　どうしてサ？
いや
明日は店
休みだね
デートにさそって
いいかい？
わたしを？　まあ
じゃ夕方ね
五時半
迎えに行くよ

へえ
男爵とデート？
ヴィー！
コートもショールもいいわよ。だれ？
ハーバート・スティーブンス男爵からのおとどけ物です
ヴィー
お茶飲んで食事ってとこね
ねえ アニー
そのコート借りていい？
ヴィーに贈り物がー
すごいわ！
まあ
バッグも！
クツも！
ショールも！
ヴィー！ すぐお風呂にはいるのよー
…夢みたい…こんなドレス。
ヴィー！ 一生に一度のチャンスよ
男爵は絶対プロポーズする気よー
ウソよう！ プロポーズなんて
でもなんてこたえる？
そんなあ わからないわ
きた！
きたわよ
ヴィー！

オペラを見るの!?
そうだよ
ヒュウ
だれだい あの美人は!
おい見ろよ!
どうぞ
すてき!! オペラなんて何年ぶりかしら!! 子どものころ見たきりよ
わたしも満足だ こんな美しい人をエスコートできて

さて幕間が
二十分だ
ロビーに行って
ワインでも…
いいえ
胸がいっぱい
幸福でこ
いや ぜひおいで
みんなをうらやまし
がらせてやんだよ
独身主義の男が
ヴィーナスをつれて
きたってね！
おいさっきの
美人だ！
オホン
こんばんは
スティーブンス
男爵
おひさしぶり
おや
きみは…
お美しい
おつれさんを
ぜひ紹介…
ヴィー!?
マーカス!?

わあ…！ てっきり… 見ちがえた…きみ
きみ 突然 引っ越してしまって あの時… あ あ あの…
彼女 ぼくの 小学校の同級生 なんです
そいつは 奇遇だ
待ってくれ お茶をとってこよう ゆっくり話そうじゃないか
元気？
ええ あなたも
クラブの 踊り子よ
え…踊り！
元気だよ エルシーや ジョンも 今どうしてるの
ハーバートは そのお客さまよ こんなふうに 踊るの

わたしの心
ゆきふる〜〜
いとしの
マンデリーン
白き月に
失礼
マーカスくん
きなさい!
あ
バカなことを!
席にもどろう
七分で一幕だ
ヴィー!!

ヴィー
待ちなさい
ええ ほんとに踊るなんて ハカなまね したわね
でもあそこにいる人たち 全部に 知らせたかったのよ
とくに わたし自身に ね
クジャクの 羽根をつけた カラスよ
この絹の 服の下は 安物の コルセットよ!

わたしは
場ちがいよ!
喜んで
ついてきたけど
住むとこが
ちがうわ!

待ちなさい――
悪かった

ヴィクトーリア
きみは一番
美しかったよ
だれよりも
だ!
泣くのは
やめなさい!

どこにいても
きみは
一番美しく
輝いている
そんな
いこじな涙で
自分を
くもらすんじゃ
ない

きみに
ふさわしいのは
女王の座だ
わたしはそれを
きみに与えたい

求婚してるんだよ
ヴィクトーリア

男爵さまの
気まぐれで
わたしを
あわれな
踊り子の座から
救済して
くださる
わけ!?

わたしは本気だ!
きみが必要なんだ
イエスと言ってくれ!
イエスだ!
その返事以外は聞きたくない
ノー!!
ヴィクトリア!

だからね
ヴィは
男爵と
出かけたって
どこへか
知らないわよ
ピリ
ヴィー!
どうして
こんな早く
帰ってきたの?
男爵は
プロポーズ
したの?
したわ
どう
したの?
キャアア
ヴィー
おばあさんが
たおれたんだ
待って すぐ
着がえるから
男爵が
プロポーズ
したんですって
ーっ
キャー
ヴィー!
返事は!?
ヴィー!
男爵に
聞いて
プロポーズ
されたの?
ええ
でも
断ったわ
いろいろ
あって

カタン
カタッ
お父さまー
おばさん!
起きちゃだめだって言ったろう! 熱があるのに
ああビリ
うあああ
ホッ
トン
今夜中にやらないと
わたしがやるわ
さあ休んで
カゼを少しこじらせただけですよ
おまえホテルは
ああお母さま
それがすごいの!
つい昨日ボヤが出たのよー
もうホテル中ススでまっ黒
もとにもどるまで
臨時休業よ
週間
さあお父さまも心配しないでチェスやってて
ヴィーが帰ってきたんだからもう大丈夫よ

ヴィーぼくは
すぐ出かける
からね
なぜ?
地下鉄工事の仕事
やってるんだよ
雪がふるまえ
完成予定で
夜間工事も
してるんだ
ああ
そう
耳…
うっ

大丈夫だよ
おばさんすぐ元気になるよ
今にきっといい方向にいくよみんな
ぼくはヴィをもっとなぐさめたかった
なんとしてでもヴィーの力になりたかった
本来ならもっとスティーブンス氏のことを気にしてもよかったのに
初めてのキスが数年来のハンデを一気になくしたように思いこんで
まずとにかく働くことに夢中だったのだ

アパートに帰れば ヴィーがスープを つくっていて
おばさんのかわりに つくろいものを していた
ぼくは昼も 働こう 次の年には そのまた 倍も
ヴィーがこうして いてくれるなら なんでもありゃしない そんなこと
新しい アパートだって コートだって きっと 買ってやる
突然 おじゃまして すみません スティーブンスさん
ぼくらは ヴィの 友人なんです
できれば彼女の いところを教えて いただきたくて
お願いします スティーブンスさん あのころ わたしたち 子どもで
ヴィーが なぜ急に 引っ越したか わからなかっ たんです
あれから ずっと 会いたくて
こっちは ふられたのに

ヴィーは
もう一週間クラブを休んでる
けしからん
いとこのどり ってのが
アパートに呼びこまてさ
母親がたおれたとかで

住んでるとこ？
知らないわあ
聞かなかったもん
そう[illegible]くならないでよ

スティーブンスさん
‖
なんとかさがそう
ロンドンのどこかだ

彼女を愛してるんだ

ワァァァァ

なんだ？なにごとだ？
地下鉄工事場の労働者がケンカだ！
ストライキだよ！
こら！近づいてはいかん
あばれるな！
近づくな！こら！
通してよ！なにをするの！
通せ 通せ
ビリー！
ビリーになにをするのよ！
ヴィクトーリア！
ハーバート！
キャッ
あぶない！
ブタ箱だ
さあのったのった
こんちくしょうオマワリ！
イテッ
ビリー！
ビリーがつれていかれる
ヴィー！
ビリー！
なんとかして！
ビリを助けて！

助けたら
わたしと結婚
してくれるか?
そんなこと
言ってる

署長に
かけあおう
おいで!

おい
そこの若いの
出るんだ
ぼくが?
ビリー!

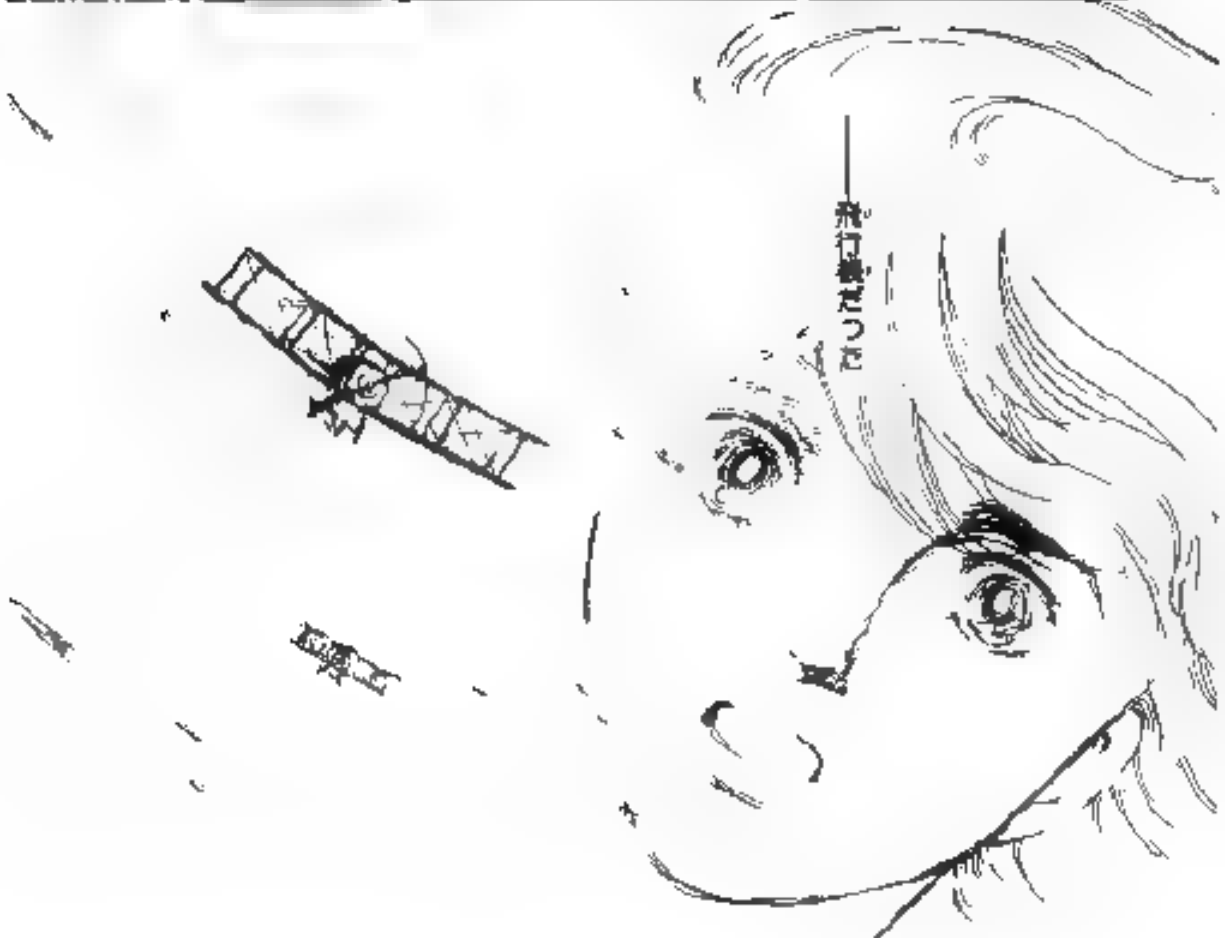
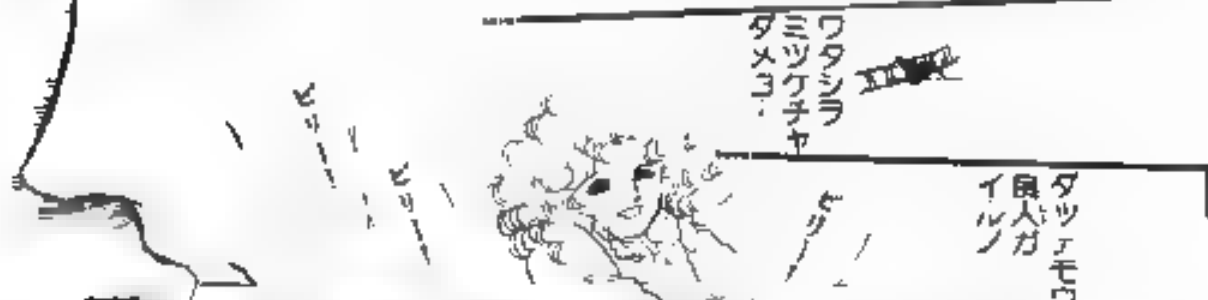
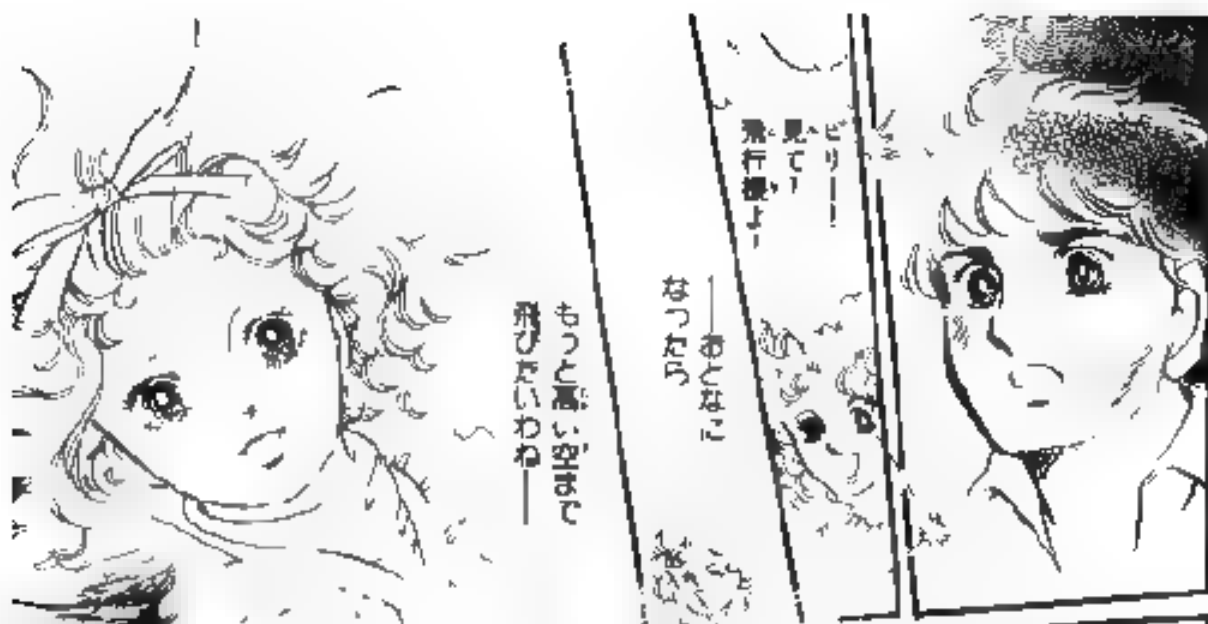
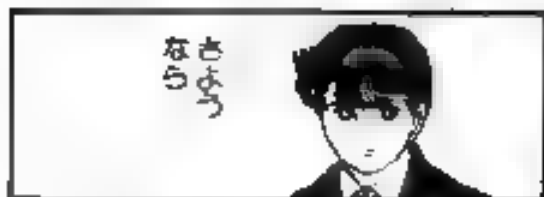
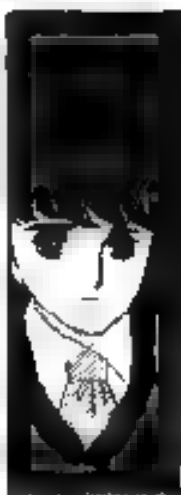
べっぴんが
迎えに
くると
出られるのか
うちの母ちゃん
早く
こねえか

ヴィー ぼく一人だけ出られないよ
みんな賃金をもらってないんだ 二週間働いて約束の半分以下なんだよ
どうして
むこうが約束を破って
やとい主のほうはちゃんと支払ったと言ってるぜ
ウソだ
ウソだ
ここにいれば支払ってもらえるわけ?
わからない
しゃいてもムダじゃない 帰りましょうよ
ヴィー だまって帰ったら またおなしことが起こるんだよ
ぬけぬけとだまされて!
ちゃんと働いてるのに
もういやよ! わたしたちになにができるの?
ヴィー!!
—もういや!
ヴィー

待ちなさい 送るよ
結婚して！
もうこんな生活はいや！
いや！
力のない生活はいや！
ヴィクトーリア！ 愛してるよ
わたしを守って！ なんの心配もさせないで！
ヴィクト——ア

そして
二日後に
ブタ箱から
帰ってくると
すべて話がととのっていた
ビリー
こちらはスティーブンスさんが
看護婦さん
突然な話で　もう
驚いたのだけど…
ビリーは知っていたの？
あの二人のこと
ビリー…？
冬がきた
ええ
ハーバートを
愛してるわ
わたしあの人が
お金持ちなので
愛してるわ
あの人が
おとななので
愛してるわ
おカネも
かせぐことが
できないうちに
だらけの
アパートなんて
もうたくさんよ

ぼくとヴィは
ほんの約束を
してたわけでも
なかった
どんなに
ヴィーが
好きでも
好きでも
ぼくは女にコートも
買えない
役立たずさ
まあ
のめのめ
もし
あのことが
なかったら
その年
下水に落ちて
凍死する酔っぱらいの
一人に加わってた
かもしれない
おい！
すげえぜ！
あんな遠くを
飛んでるぜ！
——飛行機だった

ビリー！
見て！
飛行機よ！
—おとなになったら
もっと高い空まで飛びたいわね—
ヴィ
ワタシラミツケチャダメヨ！
ダッテモウ良人ガイルノ
ねえ
ラクダのこぶにはお水がいっぱいはいってるのよ…
自分の内にあるものを
それぞれの水は
それぞれでみつけなければならないものなのだった

さようなら
さようなら
さよなら
かわいいヴィ
ぼくにとっては　いつも
春の　ライラックと
ともに思い出す
輝けるきみ
さよう
なら
さよう
なら
ぼくはきみを
忘れない
遠くへ行く
つもりです
でも
いつか ―
十年先でも
二十年先でも ―
涙せずに会えたら
いいですね

ビリー
決心は
かわらないの？
ええ　おばさん…
若いうちにいろんなこと
ためしてみたいんです

わたしたちが
あなたの親だって
忘れないでね
ええ

ビリー
エレンー

何年ぶりかで
会ったと思ったら
すぐ結婚式だ
なんて
ヴィ　とっても
きれいだったわ
うん
またみんな
おつき合い
てきるわね

でもぼくは
入隊するつもり
なんだ
飛行機を
やりたいんだよ
まあ
ビリー!!

ほんと
かわってないのね
あなたって
わたし…
なつかしくて…

あ　これ
ありがと

とう…したの
へんかな　その
ハンカチ
使ってない
きれいなのを
持ってきてた
つもり
なんだけど

おぼえてないの？

ああ そうだった ごめん― ぼくはそれが大事なものだってことだけおぼえてて
泣きむしエルシー 涙ふきなさい
大事な…
きっと結婚式の日は小さなことに泣けてしまうのだ
新しい夫婦はストラスフォードへ新婚旅行に出かけ…

わたしがあなたにあげたハンカチよ
まあ小さい
ししゅうの色があせて

元気で…とか あなたも…とか
あたりさわりのない会話をかわして送り
おばさんたちはスティーブンス氏のアパートに移ることになっており
ぼくはその日に飛行場に雑役としてはいりこんだ

ラララーラーラー
ララーラ ラ
うん今日はのりもの酔いもしなかった

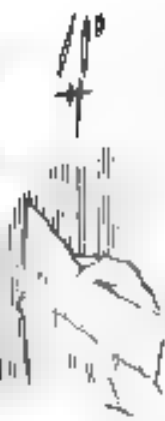
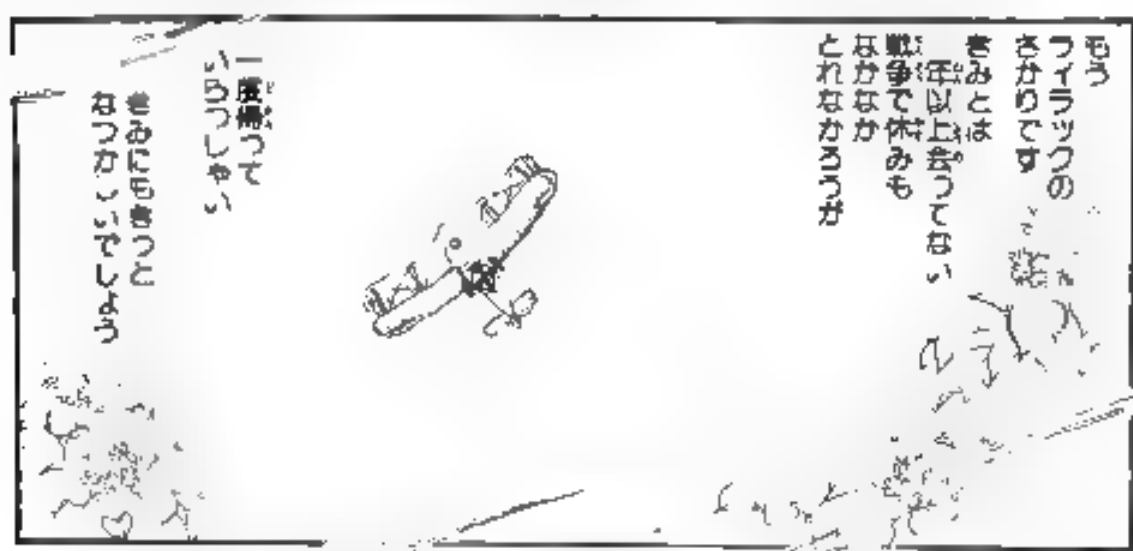
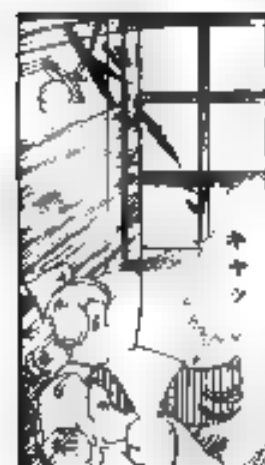
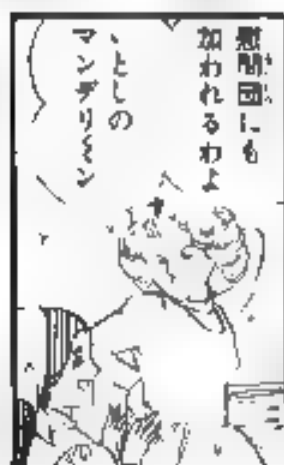
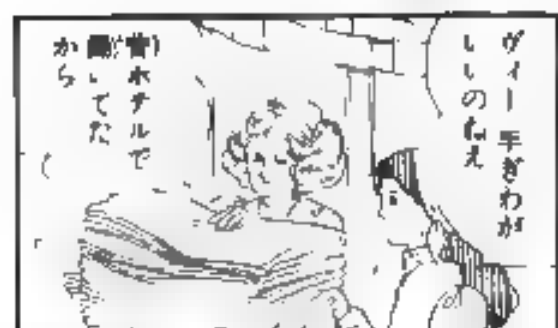
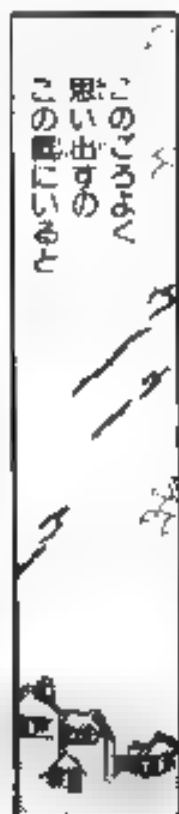
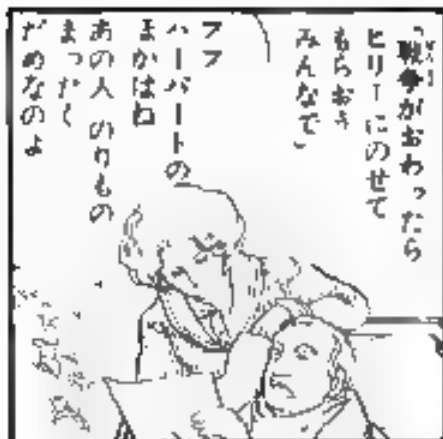
ヴィー!! かんぱいだ

なにをするの?
なに!?って
わたしときみは結婚したんだから
ええ
だから服をぬいでいっしょにベッドで寝よう
もう!?
お水がほしいわ
はい はい
ほかにご用は?
ないわ
わかったよ おやすみ奥さん
望んでいたもののすべてじゃないの
やさしいハーバート—
苦労のない生活—
そうよ なんだってのすぐになれるわ—

おかえりなさい！ヴィクトーリアーハーバート！
どうでしたストラスフォードは
ええまあ少し寒いぐらいでした
お父さん！ヴィーにどんな教育をしたんです!?
ヴィーはぼくを寝室に入れてくれないんですよ！
ハハハハ
笑いごっちゃないです！
なあに？お父さま呼んだ？
「ハーバートが泣いとったぞ」
お父さま
「夫をほうっておくとほかの女にとられるぞ」

ター
ターラ
ララ
ターラッ
ジュウ
まあ だんなさま！ わたしが やりますのに
いや いいんだ 奥さんの 朝食だから
ラ〜 ラー ラ〜
ラ〜 ラー
ラー
この人は いい人だわ こんなに わたしを 愛して くれる
なんて いい人なの そうよ 愛せるわ ー愛してる

まわせー
ビリー!!
ハッ!
いいぞー!
もう一度
設計だ!
どこが
悪かった
のか!
ビリー
手紙が
きてるよ
エルシーと
スタンレィ氏ーおじさん
からだった
元気ですか
おかわりなく
夢見ることは
時をこえて見ること
ぼくは飛びたい
遠くまで
朝焼けの
むこうまでだ

ボスニアの
サライェヴォ市で
起こった
オーストリアの
皇太子夫妻の
暗殺事件が
(一九一四年
六月二十八日)
こいつは
たいへんだと
思うまもなく
それ以上に
たいへんなことに
なり
一九一四年
七月二十八日、
オーストリアはセルビアに
宣戦布告
と同時に
協定や同盟の
からみあった
導火線に
いっせいに
火がつき
ロシアが
ドイツが
フランスが
イギリスが
わが国こそは正しい！ とさけび
平和を！ とさけび
次には防衛を！ とさけび
最後にいっせいに──
戦争に突入して──
戦争!?
イギリスも!!
ドイツが
ベルギーに
せめこんだって
おお
いやだ
自由を！
勝利を！
第一次世界大戦と呼ばれる
全世界が参加したものとなる
勝利を！
すぐおわるさ
たたきつぶして
やるからな
マーカス！
ジョン！
やあビリー
ぼくらも
入隊したよ
陸軍さ
空軍じゃなく

飛行機なんてねー
こんな重いのが
空を飛ぶのは
自然の法則に
反してるよ
そうかなあ
落っこちれば
おわりだろう
陸軍は
落っこちゃ
しないもの
スタンレィ氏から
きみに手紙を
あずかってるよ
あ どうも
家を移りました
どこだと
思います
まえ われわれが
住んでいた
家です
偶然売りに出て
いたのです
もう
ライラックの
さかりです
きみとは
年以上会ってない
戦争で休みも
なかなか
とれなかろうが
一度帰って
いらっしゃい
きみにもきっと
なつかしいでしょう
ありがとう
おじさん
でも戦争は
まだつづくで
しょう
帝空防衛を
かさね
いずれぼくは
フランスの戦線へ
飛ぶでしょう

お父さま 飛行機 こわくない？
「いいや」
見てるの 好き？
「好きだよ」
「いいねえ 昔よりずっと 型もスマートになってる 今年にはいって ドイツの飛行機も 飛んでくるって いうじゃないか」
「ビリーは フランスへ飛んで 行ったという し すごいね」
「戦争がおわったら ビリーにのせて もらおう みんなで」
フフ ハーバートの ほかはね あの人 のりもの まったく だめなのよ
昔とかわらない この家 ふたたび住めるなんて
昔 ビリーと いた
ビリー・ フランスの空を 飛んでるの？
もう二年も 会ってないわ
このごろよく 思い出すの この家にいると
ヴィー 手ぎわが いいのねえ
昔ホテルで 働いてた から
慰問団にも 加われるわよ
いとしの マンデリーン
ホホッ

一九一七年があけた
戦争は三年目に突入した
ロンドンはひんぱんに空襲をうけていた
ヴィー!!
マーカスが
マーカスが
マーカスの
お母さまから
電話で
ヴィー
戦死!!
マーカスが!?
負傷して帰国した兵士たちの無
孤児や未亡人たちの涙の無
前線はあぶなくないって言ってたのに
ヴィー
ビリーもフランス?
飛行機はもっとあぶないわ
ビリーにまでなにかあったらどうしたらいいの
エルシー
大丈夫よ
大丈夫よ!
ビリ…

ヒュー

どうしたんだろう……
近くで、戦っている…

右がわの あの しげみは なんだろう
ライラック かな
じゃ ヴィーが いるのかな・ あそこまで 行けば・ 助かるかな
ビリー 早く
わたしは ここよ
かくれてるのよ みつけて
ヴィ

──あそこまで
行けたかな──
──ライラックは
咲いてるかな
かな

奥さん手紙です
まあとうも
悪い知らせじゃなけりゃいいけどね
ごくろうさま
お母さまお茶にしましょう
お母さんヴィーがパン菓子を焼いたんですよ
ヴィー

どうしたの？
なんの知らせ？
なんなの!?
ビー！
ビリー！
どうしたんだ？
だれか
ヴィー

ヴィー
タクシー
タクシー

どちらへ
どこでも いいわ モンクを 言いたいのよ 空軍よ空軍の 参謀本部へやってー

ヴィー
これは なにかの まちがいよ
絶対そうよ あの子は 飛行機が 好きだったのよ

死んだなんて ウソよー そんなことの ために 飛行機 のってたんじゃ ないわ

ヴィー 今は 戦争中だし ビリーは戦場に 行ったんだよ 多くの 男たちと いっしょに

だんな 生存の是非を 知りたいなら 新聞社のほうが いいんじゃ ないですか
いや ホワイト ホールへ やってくれ

ワァ
ざわっ
うちの人は
息子は
まだなの 知らせは
戦局は
ワァ
ワァ
スティーブンス男爵じゃないですか?
お前か レーン大佐
なぜここへ? ま こちらへ
さっき知り合いの戦死の通告があって
ビ・・・バン 二十機飛行中隊にいたんですわ ここに・・・
ロイヤル エア クラフト隊 この戦隊は 全滅しました ・・・お気の毒ですが

まことに
お気の毒
です
わが国の
飛行技術は
確かなものですが
にもまして・
ヴィー
待て
ウッ
空襲だ
今、外に
出たら
あぶない
ヴィー

ここ数年心臓の発作はおさまってたんですが
わ
なにも考えられないし
夢ならいい みんな
夢じゃないわ
ビリーが好きだったのに・
みんな わたしのせい――わたしが悪い・
・でも こんなことになるなんて思わなかったのよ
わたし ウソをついた
一人に 愛されてることを 利用して
そして どう
ビリーは死んで 一人はわたしのすぐうしろで たおれた

あの人は
いつもわたしの
うしろで見てた
わたしのウソを
知ってた
時間はもどらない
負債は
取りもどせない
ビリーはもう
いない
ウソつき
ビリー
もう
まにあわない
ハーバートの
ところで
泣かないの
そんなこと
できないわ
いいえ
行って
おまえの姿を
見せておやり
あの人を
安心させな
きゃ
でもビリーの
ことばかり
口に出て
しまうわ
どうしたら
いいのか
わからない
あの人も
ビリーは
知ってたでしょ

ああ
大丈夫だよ
心配かけたね
ごめん
なさい
ごめんなさい
わたしを
許してくれや
しないわね?
いったい
どんな悪いことを
したんだい?
わたしに?
あなたを
一番
愛してたわけじゃ
ないのに
結婚したわ
そんなことは
いいんだ
わたしのほうは
一番
愛して
たんだから
ハーバー!

ビリを
愛してたんだね
知ってたよ
それくらいはね

とかく人生が
公平にいくとは
かぎらない

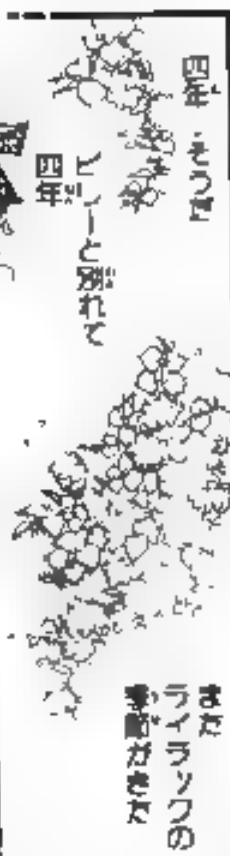
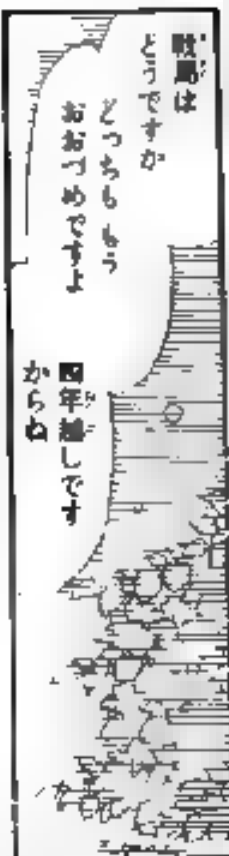
あるものは
金持ちだが年寄りだ
あるものは若いが
カネがない
だからわたしも
ずるいのさ

・・・
どうすれば
いいのか
わからないわ
わからない
ことだらけさ
人生なんて

したいように
しなさい
もしきみが
わたしと
別れたいなら
そうしても
いいし

だけど よければ
ここにいて話して
くれないかウィー
ビリーのことを

ビリーのことを
話しても いいの

どうしてあなた
そんなに
やさしいの——?

スティーブンス氏のからだのためには
海辺にでも療養に行ったほうがいいんですがね
なにせ この戦争では
戦局はどうですか
どっちも もうおおづめですよ
四年越しですからね
四年 そうだ
ビリーと別れて四年
またライラックの季節がきた
あの子はどんな飛行機のりになって
毎日なにを考えているのだろう
少しおふとりになられたようですね 奥さま
ええ いやだわ ドクター ベル おわかりになる?
このごろ スカートがきつくて…
それでつわりなどはまったくありませんかな?
つわりって !
ヴィー!!
ヴィー!!

子どもなのよ!!
わたし母親になるのよ!
わたしの？
ねえ喜んで!
喜んで!
わたしあなたにウソをついたけどこれはウソじゃないんですものね
わたしがバカでおろかな人間でも子どもは生まれてくるのね
それともわたしが悪い人間だと――生まれてくる子もおろかな子になる?
いやあ、人間は進化してるんだそんなことはない
子どもには山ほどの期待を持っていいね!
その子たちがになう新しい時代の希望をね
そうよね
あなたの子ですものやさしい子よねきっとやさしい子よ
きみの強さもね

一九一八年十一月十一日
勝利だー
勝利だ！
アラボーキング
おわったおわった
平和だ！
休戦だー！
みんな帰ってくるぞ
平和だ！
エルシーエルシー
エルシー？
ジョン!!
ジョン！ジョン！無事でよかったわ
うん
マーカスは！ピーターも
ええ！
そうだよ　きみ見ちがえた…！今日帰ってきたんだ

・女の子なの・
ポーン
命名！
コーンスオーンス・スティーブンス！
いずれ世界一のムコをさがしてやるぞ！
ジョン！きみの帰還祝いもかねて
戦争もおわったし！
かんぱい、平和ー！
エルシー！！
ごめんなさい・つい
戦争おわったのに帰ってこない人がいるんだわ たくさん・ビリもマーカスも！みんな
うっ
エルシー
ヴィー
・・・
おぎゃあ ぎゃあ
わあっ

なにを してるね 奥さん
赤ちゃんを見てると あきないわ

いい潮風だ さすがに南は ロンドンよりは ほんの少し いい気候だね
この子は どんな子に 育つかしらねえ

人間の 生きる時間て とても 短いのね ハーバート
おや おや

ええそうよ この子だって あっというまに 成長してね・
そんな 短い時間の中で わたしたち なにができるの かしらねえ

なんだってできるさ 十分な時間さ

足をぬらして くるわ
すぐ 夕食だよ

ビリー

ひさしぶりです
こんにちは

ビリーなの？ ビリーだわ・
四年・五年ぶりなのね
あなた・あなたね？
どうして帰ってこれたの？
わた わたしたち てっきり

…心配かけて すみません——
捕虜になってて フランスの兵士たちと ずっといてー

ビリー
ビリーか
はい
ひさしぶりです
スティーブンスさん
きみ 背がのびたな
わたしとかわらん
あ
ベビー
コンスターンスだね?
おばさんから聞いたよ
よしよし
かわいいでしょう?
もう笑うのよ
やあ…
よく似てるね
目もとはスティーブンスさんだし
口もとはヴィヴィだ
え きみ
きみもそう思うかね
この子は世界一の美人になると思わんか
あら
わたしは?
きみはべつさ
奥さん
お母さまたちに会ったのね?
あの
エルシーには?
ジョンやエルシーにはまだ

これから
どうするのかね
ロンドンの飛行場で
働きます
当分は軍にいて・・
飛行機・・
飛行機は
――落ちるわ
――いえ その
なんだか――
人間は
飛ぶようには
できてないんじゃ
ないの
それは
危険は危険です
だからこそ
開発に力を
入れなければ
ぼくらは
もっと
遠くまで
飛べるんです
さようなら
またね
あなたが
帰ってきて
くれて
うれしいわ
いつでも
きてね
エルシー
会ってね
きみ
実は
わたしは
内心気が気
じゃない

あれは
わたしの
一番
大好きな
いとこ
これは なにものにも
かえがたい子ども
あなたと
わたしの——
ハーバート
あなたは
わたしの
一番
大切な
ハズ
わたし 幸せだわ
ビリーが生きててくれて
こんなに幸せで
いいのかしら
それでね
エルシーはビリーが
好きなのよ
二人は結婚
しないかしら?
そして男の子が
生まれたら
いずれうちの娘と
年上じゃダメかしら?
女の空想力には
ついていけん
ヴィー
きれいで
幸福そう
だった
とっても
かわいいベビ
やさしいご主人
ぼくは
飛行機を
つくる
どこまでも
飛ぶヤツ・

ビリー!! すげえ美人が面会だよ
にくいねえ
まさか ヴィー!?
まさか夫婦ゲンカでもして…
ビリー
あ・やあ エルシー
こんにちは… 近くを通ったので…
けっこう遠いのに よく来てくれたね
きたない食堂が あるけど お茶でも
大きな声ね
うん
エルシー なにか あったの?

実は プロポーズされているの
そうかあ おめでとう きみと結婚できるラッキーな男はだれだろう
ジョンよ
ジョン!! そうか おめでとう
まだイエスと言ってないのよ わたし だって…
わたし
わたし ビリー・バン あなたが好きなんです
あなたが あなたが自転車にのせてくれた時から ずっとです…!
エルシー ぼくは
知ってます ダィーでしょ でも わたしだって ずっと言えなかったから
すみません エルシー
ぼくは あなたの気持ちにこたえられません
あなたはとてもすてきな人です 友だちとして好意は十分に持ってます でも…

エルシー
ヴィ はもう結婚してるじゃありませんか
子どももいるのよ
ぼくは一生だれとも結婚しませんよ
飛行機のほかには
エルシ
ジョンはいいヤツですよ
……
おめでとう
ジョン
エルシー
きみのたてた未来設計とはずいぶんちがうじゃないか?

やはり新しい技術というからにはフランスだろうなもしくはアメリカ――
しかしねえ戦争中はこれでよかったろうが
このあと飛行機の需要はとれくらいあるのかね
航空郵便とたまの乗客空中サーカスショー――そのほかに
だってつい十年まえは…ぼくが子どものころは飛行機は数分数時間空中に浮くだけでやっとだったんですよ
ドーバーを越える三十八分のためにあらゆる技術が駆使されたんですよ
ぼくたちが開発しようとしてるのはすばらしい力なんですよ
大西洋も太平洋も越えます…世界もまわります
夢のような話じゃないかこの坊ずそのうち月まででも飛ぶかね
ええとこまでだって――
あこがれの果てまで…
アメリカか
海のむこうの大きな国

コニー！

コニーがひきつけだ！
なにか口の中へ入れないと！

ヴィー！
なに　なにか

だめです奥さん！
かみ切られますよ！

昨日の夜から熱はさがらないし……
コニー！
どうしたらいいのかしら

おたくの嬢さんにはわたしのクスリも注射もきかないようですな
弱りましたな！

＊カレー　ドーバー海峡をはさみ　イギリスのドーバーの対岸にあるフランスの都市

はい こちら交換台
フランスのカレーにもしもし
カレー地方低気圧です通じません
いいからもう一度やってくれ通じるまで！
ガ
もしもし！スティーブンスです
もしもし
ドクター ベルです
ガガ
ヴィーですわ！あなたがとりあげた娘が高熱です！すぐ帰ってきてみて！
ガァ
もしもし？
すぐたてば朝までにロンドンに着けるでしょ
嵐で港が封鎖されてしるんだ
明日は嵐もやみそうだと言うがどうだかわからん
そんな！ドクター！クスリがきませんのよ！

ヴィー
コニーが生まれた時から
あなたがみてらっしゃるでしょ
タンがつまって息が止まるし
胃液をはくんです
なんとかして!
早く!
帰れさえすれば
近くにサーャット
飛行場があるんだが
嵐で飛べないー
そっちがだめなら
こっちから行きます
その飛行場で
待っててください!
聞こえて!?
ヴィー
なんだって!?
飛行機で!?
カレーまで!?
ええ
そうです!
ハーバート!
空軍でも民間でも
飛行機を用意させて!
すぐよ!
スティーブンス男爵です
高性能の飛行機と
有能なパイロットを
すぐ借りたい
および出国許可と
入国許可
病気の子をすぐ
カレーまではこんでくれ
高熱の子どもを
動かすのはむちゃだ!
嵐はいつ
おさまるの?
ドクター・ベルはいつ
帰れるの?
待っていられ
ません!

奥さん わたしが
カレーまでつれて
行きましょう
飛行機に
のったことが
おあり？
先生
いいえ
わたしも
ありませんわ
でもあれはね
体重が軽ければ
軽いほど
いいはずなんです
それに
まにあわないかも
しれませんわ
だからわたしが
抱いてます
お父
あなた！
コニー
無事で
行けよ！
あなた！
飛行機の手配が
すんだそうだ
ヘントンだ
行こう！
では
わたしの
車で

カレー地方の町ですな
夜間に飛ぼうってバカは
そうそう
おらんのですが
志願したのか
おって
ビリー
ベビーは…
カレーに行っとりますし
戦争中にね
人工呼吸を
忘れんで
たのむ
はい

どう？
ええ！ 平気
ドキドキしてる 時間はないわ ヴィー！
嵐なのに ビリーは飛んで くれるのよ！
ベビー！ あんたも がんばるのよ！
神さま お願い 力を貸して
ゴオオォォ

…まるで
明るい平原の
ようだわ…
まるで
きれい
これがカレーまで
つづいてる
雲なのか
この下は
嵐なの？
ビリー
フゥー
がんばる
のよ
もっと多くを
知るまでは
生きていて
フゥ
おりるんだわ
下は嵐だ

あ!?
嵐じゃない――
これは
嵐じゃない
やんだのかしら?
それとも
ちがう
ところへ
ビリー!?
ヴィー
よく
見てて

爆発
戦争!?
あ
照明弾だ――!
海だ
海の上だわ

どこの街なの?
ドーバ?
この方向でいいの?
目標は?
南!
街のあかりだ
カレー?
カレーだろうか?
きた!
きたか?
きたぞ
今少し風がやんでるいい時にきた

ヴィー！
コニーを！
息をしてない！

貸せー
どうだ?
だめだ…
息を
とりもどしたぞ
大丈夫か
奥さん…!
アレルギーか
むちゃをしたが
つれてきて
よかったな
もう
大丈夫・

よかった
そうか そうか
子どもの体力が回復しだい船で帰ってくるそうだ
ああ
ビリーは?
ありがとう
ひと休みしてす、飛行機でもどるそうだ
礼を言いに行かんとな!
スティーブンスさん!
ビリー
きみのおかげで娘は助かったなんと礼を言っていいか…
飛行機にはいろんな用途がありますよね。お役に立ててよかったです

とりあえず これを受けとって くれたまえ 小切手だ 妻と娘が帰ってきたら あらためて
受けとれませんよ だめです
しかし ながかしすい
その お気持ちだけで 十分です
きみのつくる 飛行機に 投資しよう
ぼくはまだ 勉強中ですよ
保留 しとくか そうだ

ビリー わたしは 年寄りだ きみより十六もね いずれ わたしが 死に きみが まだ 独身だったら ヴィーといっしょに なってもらい
ご元談を スティーブンスさん
いや 本気だよ わたしは 心臓が悪くて 結婚はおろか もたないと言われた
いいか 十歳まで
でも今では 結婚なさって 娘さんも生まれて
そうだまったく 世間の医師の言う ことは信用できん わしはピンピン ちがうちがう

わたしはわたしの
幸福に対して
なにかしたいんだ…
わたしは
ヴィーと出会って
…初めて…

いろんな夢を
見ることを
おまえたんだよ
わかるかね
かわいい
娘まで
さずかってた

わかります

飛行機は
いいもんかね
いいもんですよ
のってみりゃ
わかります

だろうな
そのうちまた
くるよ
娘と妻を
つれて
一度
勇気を
ふるうかな

飛行機に
のりに?
待って
ますよー

ああ

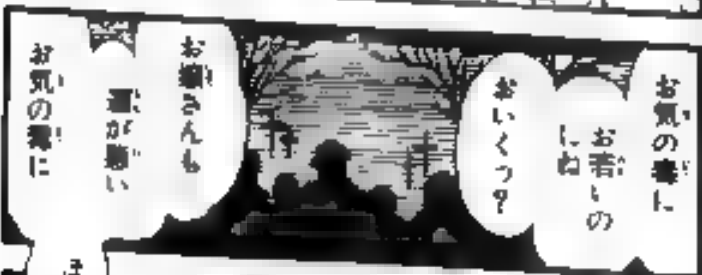
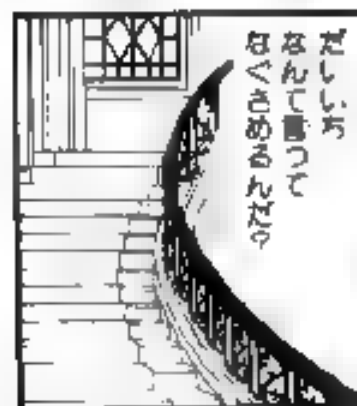
ええ 待ってます
なにもかも いい
思い出にして
おきたいですね
最後に
ご 家を
のせて
それから

ぼくは
アメリカへ
行くつもり
です――

パア
コー
ほらもう
イギリス
ですよー
はやく
ダディに
会いたい
わねー

タクシーを呼んでくれ
タクシー？あなたが!?
ヴィーは飛行機で出かけて船と汽車で帰ってくる
だからわたしはタクシーで駅まで迎えに行こうというのです
とうしました
いいえ
コホン
行ってらっしゃい男爵
行ってきます
ヴィクトーリアステーション？
ヴィクトーリアステーション！
ヴィクトーリアいい名まえだ
うわっ

爆発するぞ
近寄るな
運転手を助けろ
中に一人
だめだ もう死んでる
はなれろ

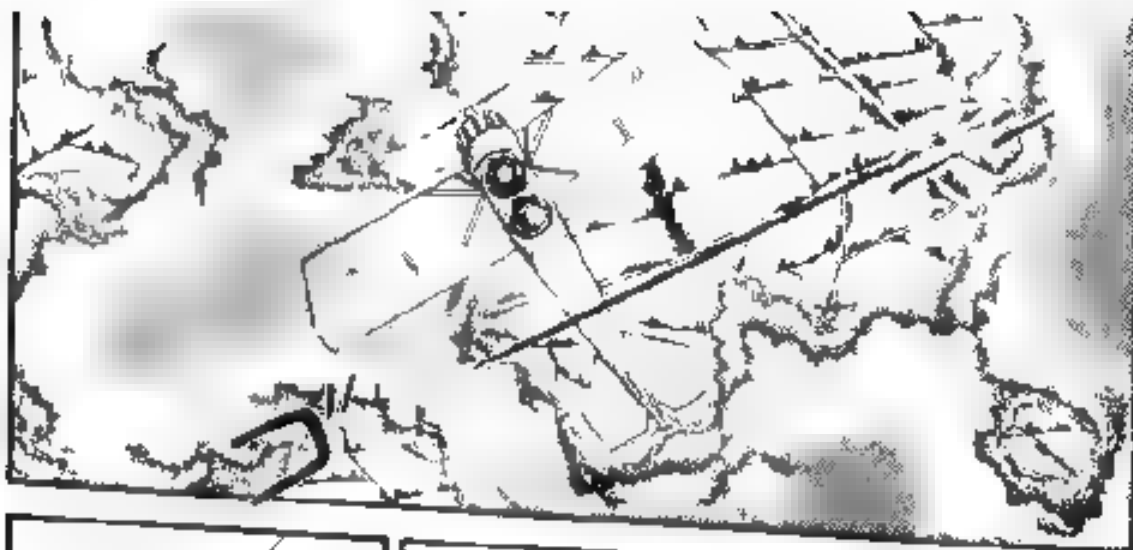
なんてこと！
だいたい主義をかえてタクシーにのったりするからよ もう あなたは！
ヴィは喪服は着なかった
黒い服はきらいだと
こい紫色のドレスを着て金色の髪を結った
ブーッ ブウ
ココ！
お気の毒に お若いのにね
おいくつ？
お嬢さんも運が悪い
お気の毒に
わたしの心ゆさぶる～～～
いとしのマンデリーン
ほんと お気の毒
もう うるさいわね わたしのそばでハーバートの話なんかしないで！

わたしたちと ほとんど口を きいてくれ ないの・
部屋から 出ないし
フェーの世話 だけは ちゃんとしてる ようだけど

ビリ お願い なんとかして
戦争中 あなたの戦死が 伝えられた時 ハーバートが ヴィーを なぐさめたの
だから今度は あなたが なぐさめてみて お願い
おばさん

そんな・
それとこれとは 立場がちがう
だいいち なんて言って なぐさめるんだ?

ヴィー ふさいでいては からだに悪いよ
ヴィ スティーブンス さんはきみが 元気になるのを 望んでるよ・

コン コン
ああ もう

ビリー

新型の 試験飛行に 立ち会わ ないか いい天気だし

わたし どうすれば いいのか わからないわ
聞こえない
わから ないわ
わたし どうすれば いいのよ ハーバート
ひどいわ いなくなって しまうなんて ひどいわ
ハーバート!!
ハーバート ハーバート

そうして ちょくちょく ヴィを つれだして
空を飛ぶうちに ヴィが大声で さけばなくなり
明るい顔を 見せるようになったのは 夏も初めの ころだったろうか
それでぼくは やっとある日
アメリカへ行く 話をヴィに つげた……
ここにいれば ぼくはきっと
病気になったヴィーの心に つけこんで しまうから……
アメ…カ？ アメリカへ行くの
どれくらい？
さあ 五年か 十年か
飛行機の技術を 学びたいんです 今のところは
あなたが やっと 元気になったから ぼくは安心して 行けます
これからも 元気でいて くださいね

ビリー…
あなたもね…
いろいろと
ありがとう…
そうなの…
行ってしまうの…
でもいいわ
あなたは
ハーバートのように
いなくなって
しまうんじゃ
ないもの
生きてるのよね
それが
わかってれば
平気
でも…かならず
帰ってきてね
待っている
から
ヴィー
待っているわ…
一番
愛してるわ
……

ぼくは
この時 初めて
知った
昔むかし
ヴィーが話した
ラクダのこぶに
はいっている
水のこと…
あの水は
きみなのだ
…愛という
水なのです
はるばると
飛びつづける
かなたには
きみがいつも
いた――
すべての
水は
きみなのだ
…いとしい
ヴィー…
すべて
きみがくれた
ものなのです――

《おわり》 別冊少女コミック 1978年3月号－5月号に掲載

ゴールデンライラック――完――